

東地区・宮島町自治会

「伝統ある祭りを中心とした町会活動」

●加入世帯 55世帯 ●加入率 100%

活動内容

宇都宮の中心に位置する宮島町は、長い歴史に支えられ、町内には江戸時代に創建された猿田彦大神が祀られています。おのずと二荒山神社との関係が深く、二番神祇町として伝統ある祭りに毎年参加しております。

夏の天王祭の親子対面行事には宮島町の神輿が参加いたします。町内の若手が中心となり元気いっぱい、勇壮に担ぎます。

また、天王祭の本社神輿御渡のときには、当町会が行列の休憩場所になっておりますので、総勢200名の行列の接待を町民総出でお手伝いいたします。町会役員はもちろん、若手がテント設営をし、また、婦人部の皆様の協力で梅酒や菓子などを振舞います。

秋の菊水祭には、天狗の衣装を着て、二日間延べ14名で参加いたします。とても町内だけでの人数ではこなせませんが、親類、友人たちが快く手伝っていただけるので、とても感謝いたしております。そして、冬のおたりや（冬渡祭）春のおたりや（春渡祭）の時には、紋付羽織袴で行列をお迎えいたします。

そして、祭りでは、「ふるさと宮まつり」への参加が欠かせません。8月の第一土、日曜日、両日、宮島町の神輿が繰り出します。約200名ほど集まってくれます。近隣の方はもちろん、東京の方からも担ぎに来てくれます。揃いの半纏で威勢の



いい神輿渡御、またその後の直会の盛り上がりは素晴らしいものがあります。

このような祭りを通して、皆様の楽しい出会いの場を提供することも歴史ある町会の役割なのだと思います。

自治会活動には、町内の親睦を図ることも大切なことです。菊水祭の後には、「宮島まつり」と称して懇親会を行います。楽しい食事とカラオケ大会、抽選会など老若男女が集います。12月23日には、「餅つき大会」催します。猿田彦神社の境内にテーブルを用意し、若手が杵と臼で餅をつき、婦人方で納豆や大根おろし、豆などの餅を作り、豚汁を用意して、子どもたちや年配の方に振舞います。そこには、昔の宮島の思い出や子どもや孫の話が尽きません。

子どもの数がとても少ない現状（5、6名）ですが、地区の体育祭や各種行事に参加しながら、できるだけの子どもの遊ぶ機械を作っていくことも大切にしています。

資源物の自主回収にも力を入れています。毎月第一土曜日、年12回、新聞紙、

段ボール、書籍、アルミ缶、酒ビンなどを回収し、業者に引き取ってもらっています。

最後になりましたが、宮島町の歴史に触れたいと思います。一番古くは、江戸時代の文化年間に建造された屋台です。なんと茂木町に現存しています。茂木の下横町の彫刻屋台がそれです。今でも「茂木の祇園夏祭り」に繰り出していることを聞き、バスを用意して、宮島町の面々で屋台を引いてきました。下横自治会長さんをはじめ、皆様で歓待してくれました。次の宮島町の屋台は大正時代のもので、これも鹿沼の秋祭りの屋台として現存しています。鹿沼の町会へも宮島町会で見学に行ったことがあります（約15年前）次の屋台は昭和天皇の御大典のときに作られた黒い漆塗の立派なもの（写真は現存）でしたが、先の大戦、宇都宮空襲のときに焼失してしまったとのこと。数々の歴史の中、宮島町の屋台を通して、茂木町、鹿沼市の自治会の皆様との交流ができていることは自治会の宝であり、大切にしていきたいと思えます。

高い加入率を維持する秘訣

秘策などありません。いかに町会の皆様といろいろな行事に、一緒に楽しく参加するか、ここにかかっています。日頃の何気ない挨拶が一番重要です。

